

平成30年度 第1回 静岡市スポーツ推進審議会 会議概要

- 1 日 時 平成30年6月21日（木）15時00分から16時30分まで
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 9階 特別会議室
- 3 出席者 **【委員】**（50音順・敬称略）
池谷 孝、内川麻衣子、遠藤知里、大橋正行、片岡佳美、小林祐太、
佐藤栄作、設楽和宏、杉山君子、鳴海恵理子、仁科斉、村越 真、
村田真一、望月勇志、山之上誠
- 【事務局】**
（スポーツ振興課）
稲葉参与兼スポーツ振興課長、戸田課長補佐兼施設第1係長、
池田主幹兼スポーツ振興係長、三矢施設第2係長、野末主任主事、
室井主任主事、村松主任主事
（スポーツ交流課）
望月スポーツ交流課長、長澤参事兼課長補佐（スポーツツーリズム推進
係長事務取扱）、山野井ホームタウン推進係長、前澤参事兼高校総体推
進室長
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1名
- 6 議 題 （1）平成30年度の主要事業について
（2）静岡市スポーツ推進計画の進捗状況について（平成29年度末時点）
（3）静岡市スポーツ推進計画中間見直しの方向性について

7 会議概要

司会（池田主幹兼スポーツ振興係長）

<開会>

稲葉参与兼スポーツ振興課長

<挨拶>

司会（池田主幹兼スポーツ振興係長）

- ・会議成立（委員半数以上の出席により会議成立）

村越会長

- ・会議の公開

事前の傍聴希望者：1名 傍聴を認める。<異議なし>

当日の会議録は、市のホームページに掲載、情報公開する。<異議なし>

- ・会議録署名人の選出 小林委員<承諾・異議なし>
- ・配布資料の確認

議事（１）平成30年度の主要事業について【資料1】

稲葉参与兼スポーツ振興課長

スポーツ振興課の主要事業について4点。

【No.1】静岡市スポーツ推進計画の中間見直し

- ・今年度行うスポーツ推進計画の中間見直しについて、内容やスケジュールはこの後の議事で詳しく説明する。予算は、市民意識調査委託料として3,240千円。

【No.2】駿府城ラン・アンド・リフレッシュステーションの利用促進

- ・この5月に施設がオープン。利用状況は、カフェを含む交流スペースの利用は大変好調。本来機能であるロッカー、更衣室の利用は今後さらに延ばしていく必要があると考える。
- ・指定管理者の指定事業・自主事業、民間事業者のビジネス利用の促進、その他イベントとの連携などを行っていく。広報周知は今後も力を入れていく。予算は、指定管理料として14,796千円。

【No.3】スポーツ施設特定天井改修及び空調機整備事業

- ・本年度、長田体育館、南部体育館、東部体育館、清見潟公園体育館の工事を予定している。平成31年度までに災害対策として行っていた一連の特定天井及び空調の改修が終了する予定。予算は、637,930千円

【No.4】清水庵原球場第2期整備事業

- ・造成事業が終わったため、年明けの完成を目指し、グラウンド表面の整備、備品等の設置を行う。足りないといわれていた硬式野球の練習場や試合の会場にもなり得るため、市民ニーズに対応できると考える。予算は、200,000千円。

望月スポーツ交流課長

スポーツ交流課の主要事業について5点。

【No.1】2020年東京オリンピック・パラリンピック合宿等誘致事業

- ・昨年度、台湾陸上、スペインバドミントンと覚書を締結。現在、台湾陸上の代表チームが静岡市内で陸上チームが合宿をしている。6月1日から29日までの約1カ月間、西ヶ谷総合運動場、清水ナショナルトレーニングセンター等を利用。
- ・スペインバドミントンチームは、8月の中旬から約二週間程度合宿を予定している。
- ・市民交流に関する取り組み「ホストタウン魅力発信プロジェクト事業」として、中学生と台湾陸上チームの選手たちが交流し、ポスターを制作していただくことになっている。予算は、40,794千円。

【No.2】ラグビーワールドカップ合宿誘致事業

- ・平成30年4月20日に組織委員会から発表されたが、イタリア代表が、静岡市を公認チームキャンプ地とすることで内定した。ラグビーワールドカップに向けて、機運醸成事業等に取り組んでいく。予算は、6,980千円。

【No.3】サッカーワールドカップ関連事業

- ・「サッカーのまち・静岡」をアピールするため、様々な事業を行う。

- ・ フォッササッカーのまち市民協議会と共催で、補助事業として①～⑥の事業を実施。
- ・ 4月下旬にはワールドカップ（オリジナルトロフィー）が清水ナショナルトレーニングセンターで公開された。
- ・ ワールドカップのコロンビア戦はパブリックビューイングを行い、約170名が参加した。予算は、補助金のうち約250千円。

【No.4】 大学野球オータムフレッシュリーグin静岡

- ・ 11月下旬、草薙総合運動場硬式野球場、清水庵原球場、西ヶ谷総合運動場野球場で開催する。静岡高校や静岡商業高校にも参加していただく予定。予算は、4,000千円。

【No.5】 平成30年度全国高等学校総合体育大会

- ・ 平成30年8月3日から6日まで体操競技、平成30年8月10日から12日まで新体操を静岡市で開催する。予算は、26,035千円

<委員からの質問等なし>

議事（2）静岡市スポーツ推進計画の進捗状況について（平成29年度末時点）【資料2、3】

室井主任主事

- ・ 資料2は、計画掲載事業の平成29年度末時点の達成度を5段階で示している。
- ・ 事業数は、当計画策定時（平成27年3月）に100事業、その後、平成29年度までに4事業が追加、2事業が廃止となり、評価対象事業は102事業。
- ・ 全体の評価は、達成度5（達成している：100%）が85事業、達成度4（概ね達成している：70～99%）は12事業あり、全体の8割以上が概ね達成という評価。
- ・ 達成度3（どちらとも言えない：21～69%）は2事業。

【1つ目】資料3の1ページ「No.9 市民ラジオ体操祭の開催」

→ 市民の健康増進等を目的として、市内3会場でラジオ体操を行うもの。平成28年度から2会場の開催としており、参加者数が目標値の6割強となった。

【2つ目】資料3の3ページ、「No.39 幼児向け屋外体操教室の開催」

→ Jリーグのスタジアムを活用し、幼児向けの運動遊び等を行うもの。数値目標（年24回程度）に対して実績が7回程度であった。これは、平日に開催していたイベントを土日の開催へ変更し、対象者の拡大を図ったものであり、良い意味で改善した事業。（幼児と母親だけではなく、父親や祖父母など、より多くの人に参加していただけるように改善。）土日はJリーグ開催など、会場の都合により使用できないこともあるため、実施回数が目標値に達していない。

- ・ 達成度2（あまり達成していない：10～20%）は3事業。

【1つ目】資料3の3ページ「No.38 スポーツ手帳の交付」

→ 昨年度から引き続き検討している事業。「手帳」にこだわらず、使用しやすいボリューム感の媒体とし、スポーツイベント情報だけではなく、子どもに身体を動かすことの楽しさを紹介できるような内容にするという方向で、リーフレットを作成した。今年度、モデル校1校（1学年・4年生）を対象にリーフレットを配布し、実際に

児童に使ってもらい、使用後にアンケートを行う。その結果を踏まえて、来年度、本媒体の作成を進める予定。

- 【2つ目】資料3の6ページ「No.90 スポーツナビシステムの研究」と、
【3つ目】資料3の5ページ「No.83 ボランティア情報の提供」の事業は連動している。
→ スポーツナビシステムとは、スポーツに関する色々な情報が集約されたwebサイトのイメージ。このナビシステムを活用して、ボランティア情報を提供するというもの
昨年度、他都市の状況調査等を行ってきた。今年度は、ナビシステムの機能についてニーズ調査を行い、仕様を決定したい。今年度実施する市民意識調査の項目に、「スポーツに関する情報収集」という設問を作っているため、この回答結果を基に仕様の検討を進める。
- ・ スポーツ推進計画は、計画当初に事業の性格などから目標値を設定しているため、経過とともに事業内容の変更等で、実態に即していない事業がある。
 - ・ 全体を通して8割以上が達成の評価だが、市民意識調査の結果が目標である運動・スポーツ実施率の向上につながっていなければ、実施率の向上につながる施策を中間見直しの中で再考したいと考える。

<委員からの質問・意見>

村越会長

- ・ 今年度の市民意識調査の結果により、事業の見直しをするとのことだが、具体的には、事業の廃止と追加と両方あり得るという理解でよいか。

室井主任主事

- ・ 廃止ではなく改善の方向で進めたい。例えば、ソフト事業のイベントであれば、先ほど説明した改善事業のとおり、会場、対象者を再考するなどの改善をしていきたい。
- ・ 事業の追加については、計画の見直し方針として、無関心層やスポーツ実施率の低い世代に対する取り組みの強化を掲げているため、そういった層へ働きかける事業を新たな施策として追加したい。

村田委員

- ・ これだけの事業があり、それぞれ実施目標に対して実績がある。これらは事業実施側から見た実績把握。それも立派なアウトプットだが、参加者満足度や来場者満足度を、簡潔でもいいので研究できると良い。
- ・ 満足度等のアンケートは全事業で行っているのか。アンケート以外でも、そういった把握に努めているものはあるか。

室井主任主事

- ・ イベント等については、できる限り参加者アンケートをとり、参加動機や参加者満足度を

把握するようにしている。

- ・ ただし、参加者満足度等は、当計画上すべての事業で数値目標に設定しているわけではないため、目標値については計画の見直しの中で再考したい。

三矢施設第2係長

- ・ 資料3の4ページ「No.62 スポーツ教室を開催」や「No.63 親子体操教室の開催」という、静岡市体育協会や静岡市まちづくり公社の事業があるが、これは指定管理者の指定事業や自主事業であり、すべて利用者満足度のアンケートを実施している。
- ・ 指定管理事業としての年度評価では、利用者満足度を90%または95%以上と設定し、実際に評価している。このスポーツ推進計画について、直営事業を含めてすべてというわけではないが、目標値の指標として利用者満足度等の記載は可能だと思っている。

村越会長

- ・ 行政が実施しているため、すべて達成して当たり前のようなところはある、実際に85%ほどが達成している。その辺りの質的なども示すと、委員も審議しやすいかもしれない。中間見直しの中で、可能な範囲で指標を示していただければと思う。

内川委員

- ・ 資料3の1ページ「No.9 市民ラジオ体操祭の開催」は、3会場が2会場になり、参加人数が減ってしまったということだったが、これから先は、対象者や会場について考えることはあるか。

室井主任主事

- ・ このイベントは、早朝6時半からのラジオ放送に合わせて市民が一斉にラジオ体操を行うというもの。当初は、3区それぞれに会場を設けていたが、駿河区の会場は交通面でも不便があることから、主管のラジオ体操連盟や関係機関と相談し、葵区、駿河区は駿府城公園の1会場となった経緯がある。清水区は、清水総合運動場陸上競技場で行っている。
- ・ 参加者については、子どもの参加が少なくなっているため、広報の強化や参加賞の用意など、子どもの参加を増やす工夫をしていきたいと考えている。

内川委員

- ・ 子どもの頃は夏休みに毎日ラジオ体操に参加して、シールを貼ってもらっていた。その時にアイスをもらったのが印象的。
- ・ 子どもを対象に拡大するのならば、学校や地域と連携して、「夏休み」を目標にやってみると良いかもしれない。

村越会長

- ・ 資料3の1ページ「No.11 静岡マラソンの開催」は達成度5で、参加者満足度も84.3%と

高いが、海外参加者に対する同時通訳サービスやインターネットによる生中継の利用率や満足度はいかがか。

- ・ 静岡マラソンも大事だと思うが、いわゆるスポーツツーリズム的な視点ではインターネット等を使ったサービスが重要な要素を占めている。ここでうまくいっているようならば、他の事業にもつなげられるのではないか。

長澤参事兼課長補佐

- ・ インターネット中継は昨年度初めて導入した。利用率までは把握していない。
- ・ 同時通訳については、海外の参加者が毎年増えてきており、昨年は250名ほど。一昨年の大会時、給水所や時間制限の関門でリタイアする方のケアで意思疎通がうまくいかない事が多々あり、本部と現場のやり取りがかなり大変だった。その反省を踏まえて、今回この同時通訳を導入。心肺停止になった方が、医師と同時通訳を使って事なきを得たということがあったので、これについては効果があったと考えている。

佐藤委員

- ・ 静岡マラソンの医事委員会の委員長をやっている。3年前には翻訳の冊子（プレート）のようなものを作ってやっていたが、今年から同時通訳の携帯電話を使用し120か国語に対応できた。心肺停止の方は中国の方だったが、非常に役立った。
- ・ コストとしては1日で5万円のような。医療救護の関係でも非常に役立つ。120か国語に対応していてその値段なので、大きなイベントがあり外国人が来られる時には、救護の面も含め色々なことがおこり得るので、ぜひ活用を検討していただきたい。

議事（3）静岡市スポーツ推進計画中間見直しの方向性について

【資料4、4-1、5、6、参考資料1、2】

室井主任主事

- ・ 現在行っている市民意識調査の結果を踏まえ、スポーツ推進計画の中間見直しを行うが、計画の理念である「スポーツの推進による健康で豊かな生活の実現」に向け、目標である市民の運動・スポーツ実施率の向上に取り組んでいく。計画上新たに盛り込むべき内容や、計画に登載する具体的事業について、その方針やスケジュールについて説明する。

1 中間見直しの方針

（1）計画に新たに盛り込む内容について

① 運動・スポーツの捉え方

- ・ 「運動・スポーツ」に対するイメージについて、「スポーツ」は、部活動や競技大会など、激しい運動や勝敗を競うものと捉える人も多いのではないか。
- ・ スポーツは、競技スポーツだけではなく、「目的をもって楽しみながら身体を動かすこと」というように概念を広げ、一人一人が、運動・スポーツをすることを特別なことと捉えず

に、身近なものであるという意識を持っていただきたい。

- ・ 国の動向を紹介。参考資料2：スポーツ庁が推進している「FUN+WALK PROJECT」。仕事をしている人にも参考になる歩きやすい参考スタイルも掲載している。
- ・ スポーツ実施率向上のための行動計画（案）では、スポーツ実施率向上のために、生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツインライフ」を目指し、そのための行動計画をまとめたもの。（参考資料2：3、5、8ページ参照）
- ・ 国の動向も踏まえ、運動・スポーツの概念を市の計画に盛り込み、一人一人が、スポーツは身近なものであるという意識を浸透させていくことで、スポーツ人口の拡大、推進につなげていく。

② スポーツ産業の活性化について

- ・ 国の動向として、参考資料1「第2期スポーツ基本計画の概要」4ページを紹介。
- ・ スポーツを通じた経済・地域の活性化として、地域活性化の基盤としてのスタジアム・アリーナの実現や、各種スポーツ団体等と連携した新たなビジネスモデルの開発支援、スポーツ団体におけるビジネス手法、ITの活用等があるように、スポーツを通じて経済産業を活性化していくという動きである。
- ・ 市としても、ハード面では、平成29年度に定めたスポーツ施設配置適正化方針において、まちづくりの拠点となり得るスポーツ施設の建て替え等にあたっては、利用状況、多様化する市民ニーズを踏まえ、単機能型のスポーツ施設ではなく、他の公的サービスや商業施設等の民間活力を導入した複合施設など、まちづくりの拠点となり得る価値の高い自立できる施設を目指すこととしている。
- ・ ソフト事業では、5月にオープンした駿府城ラン・アンド・リフレッシュステーションにおいて、民間事業者が施設を活用し、駿府城公園中堀でSUP体験教室を行っている。市は、公共施設を民間事業者へ提供することで施設の利用促進が図られている。
- ・ スポーツに、健康、ファッション、観光など、色々な分野をうまくつなげて相乗効果を生み出すことが、結果としてスポーツ人口の拡大、スポーツの推進につながるため、スポーツ産業の活性化について、市の推進計画にも盛り込んでいきたい。

③ 外郭団体とのパートナーシップについて

- ・ 外郭団体は、市と連携して市民の福祉の増進に資する政策の実現に向けて共に取り組むパートナーであり、スポーツに関して、市の外郭団体は静岡市体育協会と静岡市まちづくり公社が担っている。
- ・ 平成29年3月、市の共通の考え方として「静岡市外郭団体の活用及び連携に係る指針」が策定された。この指針に基づき、昨年度、外郭団体に係る基本的な考え方をまとめた方針書を策定したことから、スポーツ推進計画についても外郭団体の役割を位置づけるもの。
- ・ 具体的には、市と外郭団体（静岡市体育協会及び静岡市まちづくり公社）は、スポーツを通じた市民の福祉の増進に資する取り組みを共に推進するパートナーであることから、その役割、連携について明記をしたいと考えている。

(2) 計画登載事業の見直し（主な取り組み事業）

- ・ 各事業の目標値は、事業の性格により設定がされているが、「継続実施」となっているものはできる限り数値目標に変更する。
- ・ 事業内容は、参加対象者、実施時期、会場等について、市民ニーズに即した内容へ改善する。また、運動・スポーツ実施率が特に低い世代や無関心層へ働きかける施策を追加していく。これらは、市民意識調査結果を参考に再考する。

(3) 中間見直しのスケジュールについて

- ・ 資料4-1参照。委員の2年間の任期に沿って作成している。
- ・ 平成30年度は、本日を含め、審議会を4回開催予定。平成31年3月に、スポーツ推進計画の改訂版を策定する。
- ・ 市民意識調査は現在実施中だが、速報値が8月に出るため、これを基に見直し施策案を検討していく。

2 市民意識調査について

- ・ 昨年度の審議会ワークショップを行い、調査票が完成した。現在意識調査を行っている。（対象者：16歳以上3,000人、小中学生1,800人）
- ・ 16歳以上は無作為抽出だが、小中学校は、地域性を考慮し資料に記載の学校を選定した。資料5、6が実際の調査票である。
- ・ 意識調査の結果は、8月に速報値、9月にクロス集計なども含めた全体の報告書が完成する。

<委員からの質問・意見>

山之上委員

- ・ 中間見直しの方針で、新たに盛り込む内容に「スポーツ産業の活性化について」とある。複合施設の話が出たが、今新聞にもよく出ているアリーナのことを言うのか。

三矢施設第2係長

- ・ 必ずしもアリーナだけを指しているわけではない。アリーナの構想自体は、新聞報道等でも出ているが、今現在、何年に建て替えという計画を持っているものではない。
- ・ ハード面は、既存の中央体育館やナショナルトレーニングセンターなど、市のまちづくりの拠点となり得る施設の建て替え時には、単機能の今までの体育館とするのではなく多機能化の施設としていく方針。
- ・ 公共施設や商業施設との複合施設の場合もあり得る。そういった可能性を探り、まちづくりの拠点となり賑わいを創出する施設にしていこうというもの。それが全体の地域経済の活性化にもなり、ひいてはスポーツの振興につながるという考えである。

山之上委員

- ・ アリーナ構想を実際に実現することが可能であれば、静岡市としても夢があると思う。その辺りを、このような検討会の場で方向性を出すということはあるか。

稲葉参与兼スポーツ振興課長

- ・ アリーナについては、昨年度から全庁的に企画部局の方で外部の委員等を交えて検討している。今年度はさらに検討を進めていくという段階。
- ・ このスポーツ推進計画の中間見直しは今年度中の話なので、その間にある程度の方向性が示されれば、何らかの形で計画の中に位置づけることも可能かと考える。ただし、アリーナ自体をどうするかという点（規模や内容等）については、この審議会で審議する内容にはならないということでご理解いただきたい。

片岡副会長

- ・ 市民意識調査に障がいのある方も含まれているのかが気になった。調査対象の小中学校には支援学級が含まれているので、支援学級の子どもたちにもアンケートが取れるのか。また、16歳以上の対象者の中には障がいのある方も含まれているのか。

室井主任主事

- ・ 16歳以上を対象とした調査は、無作為で3,000人を抽出しているため、その中に障がいのある方も含まれているという認識。
- ・ 小中学校については、抽出校の全クラスに調査を実施するわけではなく、各学年1クラスの実施となる。クラスの選定は各学校に一任しているため、その中に支援学級が含まれているか否かは現段階で把握していない。

村越会長

- ・ 外郭団体とのパートナーシップに関連して、日体協が日本スポーツ協会に名前が変わった。市の体育協会として何かお考えはあるか。

大橋委員

- ・ スポーツ庁ができて、経過的にも体育協会の名前をどうしようかという動きはある。すでに変えているところもあるが、当協会としてはまだ決定していない。全体的な流れの中で必要があれば変わる可能性もある。
- ・ 外郭団体とのパートナーシップについては、体育協会は市の業務を一緒に担っているという意識の中で体育館等の運営をしているため、しっかりとスポーツ推進計画に記載したい。
- ・ 産業の活性化もわかるが、教室の受講料を民間と同じように上げていくことは、市民の方がスポーツをしにくくなってしまうため、すべてを経営的な効率化という視点でやるのはあまり好ましくない。多くの人たちが使えるような体育施設であればいいと思う。名前については、それによっては今後変わることもあるかもしれない。

村田委員

- ・ 産業の活性化について、今回の市民意識調査ではこのヒントになるような内容は聞いているのか。

室井主任主事

- ・ ソフト事業に関しては、16歳以上の調査では「どのようなイベントに参加してみたいか」という設問があり、その中で、「スポーツと他分野（観光やレクリエーション要素、美容、健康など）を組み合わせたイベント」という選択肢を設けている。スポーツだけではなく、他の目的を入れ込むことで、スポーツ無関心層の興味を引くことを意識している。

村田委員

- ・ これは事業展開のヒントになると思う。
- ・ 国の政策を見ると、市場規模を5兆円から15兆円に拡大するとのことで、その内訳等も出ていたが、市レベルでここに注目を集めるというのは、1つのムーブメントとして大事なこと。ただ、これを具体的に目標に落とし込むときには、数値目標もそうだが、どうやったら質的に問えるのかと思った。

三矢施設第2係長

- ・ スポーツ産業というと、大きな話ではアリーナ改革が出てくるが、分野としては、スポーツ施設に関すること以外に、用品等の物販とサービスや情報の関係があると思っている。
- ・ 1つ1つの分野ごとでできることは多分にあると思うので、それぞれを組み合わせ、事業として少しでも大きくしていきたいという発想は持っている。

山之上委員

- ・ 事業の達成度の話が出たが、達成度5の重みについて考えた。各事業も、基本的に年度ごとに決まっている事業だが、継続でも良いはず。その意味でも重みが全然違うと思う。

稲葉参与兼スポーツ振興課長

- ・ 達成度5の重みという点に関して、市として、全庁的にすべての業務を評価している中で、元々の目標値が低いため達成度が高くなっているのではないかという声がある。
- ・ 指標については、アウトプット、アウトカムの話があったが、そういう面も含めて見直しに取り組んでいく。
- ・ この計画も、80%以上が達成しているから良いということではない。スポーツ実施率を上げるための、より具体的な施策を検討するとともに、評価方法についても具体化していく必要があると認識している。
- ・ 登載事業の見直しはイメージしやすいと思うが、新たに盛り込む3点の内容は、広くて大きな話。次回以降には、計画の中にどういう形で盛り込むか、市としての考え方を示し、それについてご意見をいただけるような会議にできればと思っている。

村越会長

- ・ 第2回目の審議会は9月ということ。その時には、意識調査の速報値を示していただけることと、今日、大きな柱で盛り込む項目として出たことがもう少し具体的になってくる。今日は雑駁な形でもいいので、他にご意見があればお願いしたい。

小林委員

- ・ スポーツ無関心層への働きかけに関して、既存事業が104事業あるが、1つ1つ見ていくと初めて知る事業も多い。これらの事業を市民に公開するだけでも、新たな発見や、情報発信の意味で、「市民一人1スポーツ」という目標に近づけるのではないかと思う。

稲葉参与兼スポーツ振興課長

- ・ この計画の中に、「中学校の運動部活動の充実」がある。教育委員会で検討を進め、大橋委員や設楽委員も検討会に入っただき、部活動の在り方を検討して方針が出され、具体的に事業が動いている。そういった情報も次回以降に紹介させていただきながら、より広範なご検討をいただければと思う。

設楽委員

- ・ この施策の中に「中学校の運動部活動の充実」があるのでありがたい。現在、生徒の減少により教職員数が減っており、部活動が維持できなくなっている学校が多い。部活動がなくなってしまった種目の地域は、10～20年後は、少なくとも部活動でその種目を経験したことがない方が多くなる。
- ・ 部活動が維持できなくなった将来的な受け皿を作るのであれば、1つは総合型地域スポーツクラブのような、子どもたちが活動できる場所を確保してあげることしかないと考える。しかし、今からそれを見越して考えていかないと、そうなった時にすぐに対応できないと思う。その点も含めて考えていただきたい。

山之上委員

- ・ 前回、スポーツ施設の配置適正化方針について意見を求めるという話があり、意見を提出したが、その内容のフィードバックというのは今後どうなっていくのか。

稲葉参与兼スポーツ振興課長

- ・ 市全体で素案を作り、パブリックコメントで市民の皆さんに意見を求めた中で、審議会の委員にもご意見をお願いしたところ。パブリックコメントで出された意見やそれに対する市の考え方等については、改めて皆さまに周知させていただく。

<その他、意見等なし>

村越会長

以上ですべての議事が終了するため、議長の職を終わらせていただく。

司会（池田主幹兼スポーツ振興係長）

<閉会>